

## 平成 25 年度 第 2 回健康福祉審議会健康分科会 議事録

日 時：平成 26 年 2 月 24 日（月）13：45～15：30

場 所：加賀市役所市民会館 会議 2

出席者：別紙のとおり

### 1. 開会

### 2. 挨拶 高川市民部長

司会：新委員の紹介、配布資料の確認

### 3. 議題 司会：小林会長

#### (1) 平成 25 年度保健事業及び平成 26 年度保健事業の取り組みについて

資料 1、2、3

- |              |      |
|--------------|------|
| ①母子保健対策について  | 森岡係長 |
| ②予防接種について    | 西野主査 |
| ②健康増進対策について  |      |
| 重症化予防について    | 松浦主査 |
| 発症予防について     | 土山主査 |
| がん対策について     | 松浦主査 |
| 生活習慣病の改善について | 松浦主査 |

#### 《質疑応答》

司 会：本日欠席された河畑委員より意見が送付されましたので、代読します。

近年、加賀市における健康づくり対策として運動を対象とした取り組みが少ないと思います。大型民間スポーツクラブがないためか、市民の運動の取り組みが他市に比べて低いかと思います。まだまだ運動を毛嫌いしている方も多いようですが、正しい健康づくりのための運動を行うことで楽しさと効果を感じることが出来ると思います。楽しさと効果を感じることが出来れば、運動の継続性は上がります。

まずは、運動を始めるきっかけとなるものがあれば市民の運動への参加率もあがるのではないかと考えられます。健康増進対策として、運動へのアプローチを対象とした健康づくり事業も検討が必要だと感じております。

**小林会長**: 運動のとりくみに対しては確かに必要だと思う。糖尿病の人に話しをきくと運動の重要性はわかっているけども、自分ひとりではなかなかできない。だれか誘ってもらえれば行くのだが。

**小荒課長**: 健康づくりに関しては食生活と共に運動習慣はとても重要だと考えている。サークルだとか集団で運動する機会については、健康課だけではなく、スポーツ課や地域の生涯学習であるとか、そういった、社会資源になるような仲間づくりを活用し、情報提供を市民に行っていきたいので、サークルなどの情報を把握したい。

新しいプランの取り組みの中にも示しているが、日頃からの身体活動量を増やすといった取り組みについても計画の中にも示している。こまめに消費カロリーを増やすなど予防効果があることを情報提供したい。

**小餅谷委員**: 昨年度、加賀市のスポーツ関係で4月のマラソン、スポーツフェスティバル、市民登山、ニュースポーツを通じて楽しくやろうと行ってきた。これからはスポーツ推進員として、ただ体育を教えるのではなく、いろいろな計画を立案していきたい。各地区にも一人いるが、なかなか機能していない。広報にも相談してほしいなどの掲載をしているが、現状はそこまでいっていない。

新しい人を中心に工夫しながら、市民全体が参加できる企画をしたい。

また、競技スポーツだけではなくみんなが楽しめる生涯スポーツを地域と連携しながら取り組んでいきたい。

**織田委員**: 地区ごとに歩こう会の事例があり推進していこうと報告があったが今はどうなっているか。

また、地区ごとの健康講座、地区組織の育成に力をいれていきたい事業とあったが、地区ごとにスポーツの推進員と連携しなから、スポーツというとスポーツ振興と住民は受け止められがちで、健康づくりとどう結び付けて身近にとらえてもらうかが、PRして、年配の人たちにアピールする時に少し難しさが出るのではないかと、転倒したり怪我したりするのではないかとという話がありましたので、そういう事をもう少し連携しながら上手く働きかけていくやり方を見つけ出せないか。

**中出委員**: 加賀市に住んでいますので、今先生がおっしゃったスポーツを皆で、何か大会をするのではなくて、道々していくというのが重要と思うのですが、過去と比較したデータが必要だと思うのですが、感覚としては各地区のまちづくり協議会を中心に、私は勅使校下ですが、歩くのも年3回ありますし、ノルディックウォークが何グループかあって活発である。柴山湯を歩くと随分歩いている人が増えた、感覚的ですが、それを何か数値に置き換えて、こんな風に変化したというのが掲示できたらいいなと思った。変わってきているのではないかな、運動に関しては、私事ですが山中温泉医療センターの水素水日本一のプールの中での運動は、報道の後、沢山の人に来て下さって、皆さん生き生きと健康づくりと、もっとこんな

事がしたいと、病院の中でもいっぱい拡大していますので、多分市民の意識は随分変わって来ているのではないかと感じています。

**小荒課長**：今回の報告の部分につきましては、いつも報告の部分がかかなり多くなる事もありまして、年度途中でもございますので、全部網羅できておりません。それで地区組織とか運動の部分も出ておりますが、委員がおっしゃった通り地域の方では、ウォーキングの会や運動サークルができて、定例で行っていくような会が、保健推進員の発起でできたところもありますし、昔からずっとウォーキングの会が定着している地域もあります。そういう意味では地域の持つ力という事で、婦人会の方であったり、まちづくりの方であったりという所でかなり定着してきているのではないかなと思いますし、小集団でもお友達同士で意識があればウォーキングを続けるという風な住民自身の行動というのができるようになってきているのではと思います。数値的な部分につきましては、又特定健診とか運動習慣とか、そういった物も聞いておりますので、今後把握して、市民行動がどうなっているのかを今後ご報告して行きたいと思っております。

**上田委員**：ここではグループを作ったりして、色々動いておられる人もいると思いますが、全体として把握できることですね。例えば体育の日とかそういう時に、私たちは毎日こういう風にして動いていますとか、ポスター発表すればもう少し把握できて、お互いがんばりあうことや、意識付けできるのではないかと。

**小餅谷委員**：せっかくまちづくりとかでウォーキングなどを行うのですが、「会」になってしまうとダメなんです。「会」になってしまうと、「会」の人しか来ない。皆が来ようと思ってもその中に入れない。だからそこをもう少し考えてやらないと、せっかく「ウォーキングやっていますよ」と言っても「あの人たちだけや」というニュアンスで捉えてしまうので、それではやっぱりスポーツ推進員の立場から言うと皆に参加してほしい。特にウォーキングするのははっきり言って健康な人ばかりで、意外と病気を持っている人は出てくるのは少ない。ですから、確かにウォーキングサークルというのはできるが、その「会」になってしまうとその人しかいけない。他の人が入って来ようとするとうってこられないので、もう少し幅の広い考え方でいかないと、以前橋立地区でも、体育委員と推進員と横の連携をしようと、何回か話し合いはしているが、なかなか横の連携がうまくかない。どうしても縦割りにになってしまうのが現状である。それから今年8月に全国のラジオ体操が来ます。是非みなさん参加してほしいと思っております。それも1つの健康の為で皆さんが毎朝できれば。

**横山委員**：老人会としましては年1回3キロコースでウォーキングをしております。けれども私自身思うには、自分の身体を眺めて、いかにその脂肪を燃焼するかという事で色んなところに顔を出して聞いております。やはり老人会の皆さんも年に1回だけではなく、その季節ごとに何回かウォーキングしたらいいなど、私はそう思って皆さんの意見を聞きながら4月らの年度変わりから、横の連携を蜜にして、体力づくりをやろうと思っております。

**宮永副会長**：資料1の保健事業についてなんですが、まず1つめお聞きしたい事は2ページですが、非常にきめ細かく保健指導がなされていて、妊婦さんたちに非常にありがたいなと思うのですが、聞きたいのは右側の次年度の取り組みのところ、助産師連絡会において、「情報を共有して」という所がありますね。非常にこういう事は大事ななと思って読んでいたのですが、現在、助産師連絡会は保健師さんと一緒にするという事だと思うのですが、現状はどうなっているのか。個々の方々に対して情報を提供しあっているのか、これを今後どういった形で進んでいくのかを、お聞かせ願いたいのが1つです。

それから2つめは、資料3の12ページ、ここにがん検診等のクーポン券を出した結果、非常に受診率が上がって、例えば子宮頸がんなら9%と急激に上がっているという事がある。市の方からこういうクーポンが来ると、行かなくてはいけないという気持ちになり、お子さんの予防接種が個別接種化になって来てくださいますねとなると、もう頭からそれを信じて行かなくてはいけない物だし、する物だと思うのが、普通の人の感覚だと思う。ですから国の方針もあるかもしれないが、慎重にぜひ、安全という事を考えて市としては、動いて頂ける物と信じておりませんが、そうやって欲しいと思っています。1つ日本脳炎の事につきましても、しばらく差し控えになったが、順次積極的勧奨を開始と書いてあるが、この辺りも危ないのではないかという時期もあったと思います。それがどの様に移行してきたのか、風しんも一時期実施していなかったもので、今年爆発的に流行っているという事も聞いているので、その辺りの慎重さという事を思います。私も小さい孫がおりますので、もし家にそういうクーポンが来たら、お嫁さんは行かなくていけないと、行くと思いますので、市の事は信じているというそういう思いなので、色んな面で慎重に考えて事業を推進して欲しいと思います。

**小荒課長**：まず1点目の助産師連絡会についてですが、こちら資料1の2ページに助産師連絡会として事業の実態と課題を書かせて頂いておりますが、月1回定例開催しております、市のほうで全戸訪問していますが、健康課の保健師と在宅の助産師さんで全戸訪問を行っています。その在宅助産師さんと、市の健康課と市内の産科をお持ちの加賀市民病院、山中医療センターそちらの助産師さん、そして産後家庭支援ヘルパー事業委託事業所という所1箇所と、産後の支援のこども課のサービスも絡んでくるので、こども課の相談室の職員も一緒に定期的に参加しています。内容といたしましては、お話があったようにケースを通して、若年者の出産や、30代後半でもなかなか産後不安が強い方、妊娠届の中で把握できるリスクの高い方を通して、皆さんにご意見を聞きながら、より良い支援について検討するという事で、次年度のについてもより把握の方も十分にしながら、蜜にしていきたいという事で取り組みの方に書かせて頂いております。

予防接種については、国の方で色々体制が変わる中で、予防接種の制度そのものの見直しを行っております。私たち市町村だけではその有効性でありますとか、その危険性につきましても、なかなか判断は難しいところですので、当然国の方の予防接種審議会の方で審議した方針に基づいて市が行っている定期接種という体制で順次受け漏れが無い様に、国の政策

に則ってご案内させて頂いているものが殆どです。ただ先程の風しんにつきましては、予防接種を受ける機会が昔1・2歳の時に1回しかなかった。それが今2回の体制になるまでの間に法改正があった時に、免疫力の弱い年代の1回しかない子供さん達に発生しています。その方たちがお父さんになっていて風しんになってしまった。その事によって妊婦さんに移って、妊娠中に風しんにかかってしまって、難聴の子供が産まれたりと、風疹症候群のお子さんが産まれたという事がありました。そういう法改正に伴うところの免疫力の強さというか、そういう年代は現実的には発生しておりますが、これも国の方がきちんと調査に基づいて、この人たちを上げる為にはどうやればいいのかということで、来年度につきましても、そういった抗体検査をやっていただいて、それから自主的に風疹をやっていくという事で進めましょうと、きちんとした調査とかそういったものにつきまして、少しずつ日本が、諸外国と比べてみると予防接種について若干対策がとられていた所について薄かった部分について今見直しをしていますので、慎重に危険性のないようにというのは当然でございますし、今子宮頸がん等についての積極的勧奨をどういったものを見直す事を、国の方が検討しまして、その結果を受けまして、市民の方にお伝えしていくという事で対応していきたいと考えております。

それともう一つはがん検診のクーポンの事について、予防接種の接種券と合わせた形でとのご意見だったと思うのですが、資料3の12ページの方にはがん検診のクーポン券の利用によっての成果というところが、国の方はクーポン券事業というのを、一応5歳刻みでやっていたものを見合わせましょうかという動きがございましたが、市としましてはやはりクーポン券をお出しした人達についてはあきらかにがん検診を受けていただいた方が多いというのがずっと比較してわかっております。クーポン券を送った方では倍近く受診行動につながっておりますので、これを継続していきたいなという事で、国の政策が有る無しにかかわらず、市民の受診行動につながる起爆剤にならないかなと考えております。

**山本委員**：3つほど取り組んで頂けたらと、お話しします。母子保健事業というところでの資料の説明の中で、妊娠前に不妊相談といった事であげられている。じゃあ具体的な中身としては妊娠届出の時にそれを含めてとなると少し遅いのではないかと、身近でもまだお子さんが産まれないという方がいる。なかなか微妙な問題でしょうけど、大切な事だと思っています。少子化という事に対して1つの大きな事業だろうと思っています。ですからこういった事をもっと、研究して、効果的な政策に取り組んでもらえたらというのが1点、そして乳児期について、今日たまたまラジオで初めて聴いて驚いた事があります。昨今ハイハイをする時期が相当変わってきているという事です。それは生活習慣がイスとかベッドに移行したなかでハイハイをしなくていきなりスッと立ち上がってそこからつたい歩きをしだす。しかい、ハイハイは非常にいいらしいんです。長い期間ハイハイをしていると、運動神経が格段に良くなるそうです。そういう事を親御さんが知っていたならば、10カ月健診の時に、その参加率が50%位だったと、低い数字でした。10カ月、早ければ5カ月・7カ月のそんな時からハイハイしだすとそういう話でした。そういった事をどんどん促進していってくると、親御さんも敏感になり子供の育成に関心を持ってもらえるのではないかと思います。

そういった事をぜひ育成事業に加えて行って欲しいと思います。

それと予防接種ですが、高齢者の肺炎の予防接種ですが加賀市の方は75歳以上ですが、小松もそうですか。小松は65歳以上ですか。記憶が定かではないですが、何故こんな事を言うかという私去年肺炎で5日間入院しました。60歳の時、それに非常にショックを受けました。なぜかという、私は走ったりしていたりと運動して、結構同年代の人からみると体力は維持しているだろうと思っていたにもかかわらず、なったという事で非常にショックを受けました。そうして入院したところで、肺炎の予防接種があると初めて聞きまして、そんな事ですぐ肺炎の予防接種してくださいと言ったら、「あなたまだいいですよ。もっと後からでもいいですよ。」と聞きましたが、加賀市内ですぐ受けました。そうするとやっぱり、この肺炎による死因が高いというのも聞いておりますし、インフルエンザから移行するという事も聞きますので、そうするとこの75歳からという物をもう少し繰り上げて欲しい、かなり費用はかかると思うが、非常に市民の高齢者、中高齢者の健康を維持するというとても有効な手段になるのではと思いますし、積極的な助成を検討してほしいと思います。

**森岡係長**：1点目不妊治療の普及啓発といったところですが、こちらの方はこども課の方で医療機関等を含めて周知の方をしている中で、健康課としてはという所では妊娠届出の歳に助成の申請の漏れがないかという所を含めて、やっております。なかなか不妊に対する周知という事になりますと、大変デリケートな部分もあり、対象になる方法とか色々な事があるので、機会を捉えてこちらの方では周知しているといった状況があります。

それと2点目ですが乳児期の取り組みという事で、ハイハイの重要性が発達の中での大切という事だったのかなと思うのですが、こちらの方は私たちの健診を通してという所で、まず高い受診率を持っております4カ月半児健診の時に、すべてのお母さん方に、現在の4カ月の発達とこれからどんな風に体幹ができて、ハイハイして、お座りして、つかまり立ちしてという運動発達の流れをお伝えしながら、4カ月半ではもううつむせ運動という所を大切な運動発達の出発点として、発達の中での大切な部分として、お話をさせて頂いています。その中で7カ月、10カ月の教室の中でも運動を含めて色々な興味を沸く部分とか、母子関係の中でのお母さんの関わりの部分も含めて発達に応じたお話をさせて頂いております。引き続きこの辺りもやっていきたいと思えます。

**山本委員**：今の話でハイハイとすると、脳と心の良い刺激になると、ただゴロゴロしているとかとは全然違くと、そういう効果があるという事を認識してください。

**小荒課長**：子供の成長と発達といったところで、当然運動の機能と身体の機能がついていく事と、頭のそういった部分についても関連があるよといったところで、先を見越してお母さん方がイメージをしていいような発達を促すような、そういった指導を今後とも努めてまいりたいと思っております。

3つめの予防接種でございますが、小松市も肺炎球菌ワクチンの助成は75歳以上になっております。加賀市の方も助成制度75歳からという事で、今年から開始させて頂きました

が、平成26年度の取り組みといたしましては、国は「成人肺炎球菌ワクチン」という名前の定期化として65歳以上且つ60～65歳以上で、肺の疾患があるような方であるとか、肺炎になりそうな方とかに、インフルエンザと同じような形の定期化接種を考えておりますので、加賀市としても国に準じた対応をしていきたいと考えております。

**上田委員**：肺炎球菌だけが肺炎ではないですし、それから合計で2回しかできないです。61歳で接種したら5年以上開ければいいのですが、2回目をするると60代で2度することになる。何歳まで生きるつもりですか？僕は必ず予防注射の時にはそれを聞いているわけです。あなたならまだまだ80・90まで生きれますよと、だから75を超えて80近くになったら打ったらどうでしょうかと、そういう風に言っています。

もう一つ誤飲でも体力の弱い人は肺炎になりやすいですから、誤飲とかそういう事が無いような、生活習慣とか運動があるんですね。唾液とかが出る。そういうのを日常生活に取り入れたらどうかと思っています。教えていただければ教えて頂く所があるので、病院にでも聞いてください。

それから2番目の子供のハイハイですが、とにかく活発に動く子というのは、将来頭の発達も良くなりますし、肉体的にも健康になりますし、社会性も身につきます。皆と仲良く協調して生活しようと、当然ですね。僕らが小さい時から遊んだような事や全員で遊ぶような遊びを、それをずっと続けてハイハイも続けて、その後も身体を動かす事を身につければいいのかなと思います。

3番目ですけど、メタボの健診の事ですけど、何で腹囲が男と女で違うのかと、昨日たまたま講演会があって聞きました。内臓脂肪が100平方センチ以上になると、非常に生活習慣病に関連した疾病がおこりやすい。合併症が起こりやすいですし、ガンも発症しやすい。その辺もう一つ市の人も、加賀市の住民も自覚していないのではないかなと思ったので、PRして頂ければと思います。

4番目は野菜ですけど、海藻は含まれないのでしょうか、という質問です。5番目は不妊の事ですけど、何かの機会を見つけて20歳を超えたら、家庭計画をつくらなければいけないと思うんです。今のマスコミを見ていると40歳で出産したとか書いてあると、私は大丈夫なのかなという思いを持っている人がいると思うんです。今になって初めて知った、もっと早くから知っておけば良かったという人が必ずおりますので、そこら辺の啓蒙をお願いできたらと思います。

**谷口主査**：海藻は野菜に含まれるかという話ですが、野菜の成分と海藻の成分というのはやはり違っておまして、野菜350gの中には、色の濃い緑黄色野菜といわれる物を3分の1含める事によって、ビタミンA等の供給がうまくいくという事で、ガンの細胞の死滅に必要なビタミンAが摂れたり、ビタミンCであったり、海藻の方も食物繊維であるとか、カリウムであるとか、そういった栄養素の給源となって良いわけなんですが、市の方では食事接種基準を受け、海藻は野菜とは別に1日では戻した量で50gで推奨して健康教育・保健指導に生かしております。きのこも別で考えております。

**小林会長**：色々と活発にご意見を頂きましたけれども、非常に良い意見が沢山出たと思います。おそらく市が入ってくると縦割りですよ。横の繋がりを繋げて、近所の力をつけて皆でやっていこうという様な、運動していこうという意見もあったと思います。非常にそれは良いので続けていかれたらいいと思います。

もう一つは、市の方の健康課だけで、色々あちこちに行って啓蒙しておられますが、その回数をもしあれだったら、山中も加賀市民病院もしているのです、その中に一緒になって計画の中に入れていかれたらいいのでは、そうするともっと濃く色んな所に排出できるのではないかと思いますし、後、予防接種ですけれども、予防接種は必ず十万人・百万人に一人は副作用が、それでも予防した方がいいと、予防接種した方がいいという事で国が推奨し、どの位の割合で副作用が出ているのかを含めて検証しているので、予防接種はできるだけ受けられる方が本当は良いと思います。それで何かあったら、すぐにそれに対して対処するという体制もとられていますので、そういうような事で予防接種も受けられてとにかく予防していくという、予防できるものを予防していこうという事が良いと思いますので是非お願いいたします。

#### 4 その他の議題

**司 会**：平成 26 年度の健康分科会の開催は、2～3 回を予定

**小林会長**：資料が大変わかりやすくまとめて頂いて、かなりエネルギーがいったと思うのですが、お聞きしていても加賀市の頑張られた様子がよくわかりましたし、課題も明らかになったと思います。やはりこんな資料の掲示が必要だとずっと思っていたので、大変でしょうけど、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 5 閉会